

やすらぎだより

5
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

コラム第143号

「 巡りめぐ季節 」

施設長 植田 誠



若葉萌えるこの季節、園庭を見渡すと変わらず訪れるものがあることに気付く。遅桜の短い開花、青々と茂げ始める落葉樹、ひかえめに鳴くウグイスの声、必ず同じところに存在するつばめの巣作り。それらは変わることなくこの季節に毎年訪れる。人の知恵や考えの及ばぬ領域、自然という不可侵で揺るぎのない大きな力のご守護によって、巡りめぐ季節を味わわせていただける。贅沢と言えれば贅沢だ。

人の及ばぬ領域が自然ではあるが、自然は環境によって大きく影響される。そしてその環境こそ、人がつくるものだと言える。詰まり、どういう自然かは人によって変化するものだとも言えよう。当たり前前に繰り返される季節の風情も又、見えないものの力とともに人の無償の努力の積み重ねかも知れない。

時が経てば環境は変わる。見渡す限り山と田畑と古くからの民家だけであつたこのやすらぎ園が存在する福住地域の景色も、長い年月の経過とともに少なからず変化した。

4階建の特別養護老人ホームの高さは18.76メートル、建築基準法及び条例等で定められている高さ制限を意識しながらも、市街化調整区域であるこの地にそびえたつ屋上から見渡す景色は壮観だ。長年変化に乏しかったその四方の景観にも、この数年で少しアクセントが出てきた。

北東の一部には、造成地として新たな創出が成される。そして南側一帯は、2年の工期を経た9万枚のメガソーラー施設が存在している。何十年変わらなかつた景色ではあるが、たった数年の年月で一変することもある。それが環境、そしてそれが自然であり不変ではないことを、見渡す風情が教えてくれる。

大切なのは変化したかどうかではない。与えられている自然や環境を如何に活かすかだ。このやすらぎ園、この福住にはその選択肢と可能性が散りばめられている。巡るめぐ季節の味わいに、活かせる糸口は見えてくるだろう。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 居宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい
- 低所得高齢者等住まい・生活支援事業